

キャリア育成学科オフィスワークコース専門科目カリキュラムマップ(平成31年度入学生2年次科目)

ディプロマ・ポリシーに示す共通到達目標(学修成果)

観点	到達目標(学修成果)
1. いのちの平等、尊厳性への気づき	あらゆる存在が個人の価値観を超えて絶対的な尊厳性をもって存在することを理解している。
2. 生かされていることへの感謝	生かされていることへの感謝の心をもち、他を生かす活動を実践することができる。
3. 倫理観	人として守り行おうべき道について考え、それを実践することができる。
4. 知識・技能	社会生活を営む上で必要な幅広い知識をもち、職業人として必要な技能を身につけて活用することができる。
5. 論理的で柔軟な思考と判断力	先入観や既成観念等に縛られず、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。
6. 自己表現力	自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。
7. 主体的な行動力	責任感・使命感をもって主体的に行動することができる。
8. 他者との協働力	社会を構成する一人の人間として、異なる価値観や背景を理解した上で連携・協働することができる。

ディプロマ・ポリシーに示すオフィスワークコース到達目標(学修成果)	
観点	到達目標(学修成果)
A. 知識・技能【専門能力】	オフィスワーカーとして必要とされるビジネス実務の知識やスキルを身につけており、活用することができる。
B. 論理的で柔軟な思考と判断力【シンキング】	ビジネス現場や地域社会で起こりうる変化に対し、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。
C. 良好な人間関係を築く力【ヒューマンスキル】	ビジネス現場や地域社会のさまざまな場面で求められるコミュニケーション力とマナーを身につけている。
D. 主体的な行動力【アクション】	ビジネス現場や地域社会において、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組むことができる。
E. 他者との協働力【チームワーク】	組織の一員として、組織内外のさまざまな他者と連携・協働したうえで、業務にあたることことができる。
F. キャリアデザイン【キャリア】	自らの将来についてキャリアデザインを描くことができ、その描いたキャリアデザインを実現する準備が整っている。

カテゴリー	授業科目	授業概要	科目の到達目標	到達目標(学修成果)の観点番号・記号												
				凡例 ◎ DP達成のために特に重要な目標 ○ DP達成のために重要な目標 (一つの到達目標に◎と○一つずつを原則とす)												
				1	2	3	4・A	5・B	6・C	7・D	8E	F				
コミュニケーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションの目的・構成から、表現技術、視覚資料の作成・実施まで、効果的なプレゼンテーションについて講義・演習(グループワークを含む)を繰り返す。クラスの前での3回の発表と発表後の自己評価を通してプレゼンテーションスキルを養成する。	1. プレゼンテーションの構成の仕方を理解し、実践できる。 2. 自分の考えを分かりやすく伝えるための表現技術を身につける。 3. プレゼンテーションの内容を補う効果的な視覚資料を作成することができる。					○	◎							
	日本語作文Ⅱ	既習の表現の正確性を高めるとともに、より高度な表現を学習し、正確に使えるよう練習する。様々なタイプの文章を読み、内容を正確に読み取る練習をする。	1. 日本語能力試験N2相当の漢字・語彙・文法を習得し、正しい文の組立てができる。 2. 中程度の文章を正確に理解し、筆者の主張を読み取ることができる。 3. 学習した内容について振り返り、復習する習慣をつける。					○	◎							
	日本語作文Ⅲ	既習の表現の正確性を高めるとともに、より高度な表現を学習し、正確に使えるよう練習する。中文～長文程度の文章を読み、内容や筆者の主張を正確に読み取った上で自身の考えをわかりやすくまとめ、述べる練習を行う。	1. 日本語能力試験N2相当の漢字・語彙・文法を習得し、正しい文の組立てができる。 2. 中文～長文程度の文章の内容や筆者の主張を読み取った上で内容に関して自分の考えをまとめ、述べるができる。 3. 学習した内容について振り返り、復習する習慣をつける。					○	◎							
アクション	ビジネス実践	「これまで学び、発見した自らの課題・問題点の改善度合いの認識」「社会人としての強い自覚」を目標に、企業・病院などの事業所で現場研修を行う。	1. 短期大学生活における成長度合いを認識できるようになる 2. 社会人としてそれぞれの事業所で求められる人物像になれるようになる 3. 社会人1年目の目標設定をできるようになる					○	◎							
	ボランティア実践Ⅱ	ボランティア活動に参加するために必要な知識と手続きを学習した後、学生が自らプログラムを立案、実施する場合と、ボランティア活動実施団体の企画に参加する場合がある。実施、参加プログラムごとに個人、グループごとに指導する。	1. 学内外で身に着いた得意技を広く社会に活かすことができるようになる 2. ボランティア体験活動の中で学び習得した技と心を生涯の糧として、豊かな人生設計に役立てることができる 3. ボランティア体験活動を通じ、自発性、社会性、無償性の行動を実践できるようになる 4. ボランティア活動のリーダーとして活動の推進、周りへの働きかけができるようになる		◎	○					◎					
チームワーク	ケース・メソッド	短期大学生用に作成したケースを利用しながら、入社3年以内に起こる可能性が高い人間関係の問題について受講生の皆さんと一緒に何が問題なのかを考える討論形式で進める演習形式の授業である。個人学習・グループ討論・クラス討論の3段階を通じて、問題発見力、問題解決力、意思決定力を養っていく。	1. 職場で発生する人間関係が何故発生するのか、問題発見力を身に付けることができる。 2. 発生した問題を、どうすれば解決できるのかを提案できるようになる。 3. 繰り返し討論を実践することで、多様な考えを理解し、自らの思考の幅を広げられるようになる					◎			○					
シンキング	市場調査	我が国の経済は成熟しており、モノやサービスが市場に溢れている。豊富な選択肢が消費者の生活の質を向上させることと反比例して、各企業の競争環境は厳しさを増しており、売ることが困難な飽和時代における対応を考えることが急務である。多様化する消費者ニーズを的確に捉えた経営を実践することが肝要であり、消費者が思わす欲くなるモノやサービスを提供することが急務だ。本講義では、そのための理論や技術を、豊富な事例を織り込みながら学ぶ。	1. 基本的な店舗運営の仕組みを理解し、理論的に説明することができる。 2. 最新の流通業に係る技術を習得し、将来の就業の場で実践することができる。 3. 日本商工会議所「リテールマーケティング(販売士)検定3級」受験に必要な知識を習得する。					◎							○	
			事例研究や地域との連携活動を通して、マーケティングの基本的な考え方や理論、実践的な活用力を身に付ける。 ゼミナールⅠで行った一身田寺町町来訪者調査の報告書をまとめ、提案を含めて発表を行います。 卒業研究レポートを作成するにあたり、テーマの発見方法、論文の書き方、情報の収集の仕方や整理の仕方などを学びます。	1. マーケティングの基本的な考え方や理論を理解し、実践的な提案ができる 2. 事例研究や地域との連携活動の経験に基づき、卒業研究レポートで取り組むテーマを明確に描ける 3. ゼミナールの仲間と協力して、地域の連携活動などプロジェクトに取り組む力が身につけている					◎	○				○		
ゼミナールⅡ(中畑ゼミ)	ゼミナールⅡ(鷺尾ゼミ)	卒業研究レポートを作成するにあたり、テーマの発見方法、論文の書き方、情報の収集の仕方や整理の仕方などを学びます。 情報分野の技術、サービス、活動などに視野を広げ、文献を読み知識を深め、お互いに情報交換する中から疑問点を見つけ卒業研究課題を見つける。そして、実行性ある研究計画をたて、十分な準備をする。	1. 情報分野の卒業研究活動を通して、対象領域についての造詣を深める 2. 卒業研究の進め方、レポートのまとめ方を理解し、卒業研究の具体的な計画をたてることができる。 3. 情報ボランティア活動をゼミ活動として自ら主体的に計画を立て準備し、イベントを実現することができる					◎	○					◎	○	
			卒業研究レポートの作成に向けて、テーマを決め、文献の収集・記録・整理を行い、研究計画書を作成する。	1. 異文化コミュニケーションについての理解を深める。 2. 必要な情報の収集・整理が適切にできる。 3. 遂行可能な研究計画書を作成することができる。					○						◎	
			前期のゼミナールでは、卒業研究レポート作成の基礎作りを行う。課題発見の方法について学んだあと、各自が言葉やコミュニケーションに関するテーマを決定する。次に、情報の収集・整理について学んだあと、各自のテーマに関する文献を収集し、収集した文献の概要を発表する。	1. 言葉やコミュニケーションに対する理解を深める。 2. 各自のテーマに基づき分析・考察を行い、論理的思考力を向上させる。 3. わかりやすいレジュメを作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。					○			◎				
ゼミナールⅡ(山下ゼミ)	卒業研究レポートの作成に向けて、テーマを決め、文献の収集・記録・整理を行い、研究計画書を作成する。	1. 異文化コミュニケーションについての理解を深める。 2. 必要な情報の収集・整理が適切にできる。 3. 遂行可能な研究計画書を作成することができる。					○						◎			
ゼミナールⅡ(野呂ゼミ)	前期のゼミナールでは、卒業研究レポート作成の基礎作りを行う。課題発見の方法について学んだあと、各自が言葉やコミュニケーションに関するテーマを決定する。次に、情報の収集・整理について学んだあと、各自のテーマに関する文献を収集し、収集した文献の概要を発表する。	1. 言葉やコミュニケーションに対する理解を深める。 2. 各自のテーマに基づき分析・考察を行い、論理的思考力を向上させる。 3. わかりやすいレジュメを作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。					○			◎						
ゼミナールⅡ(海住ゼミ)	就職試験を念頭に置いて、その心構えと最新情報等の学習をサポートします。そんな中から、自分の興味あることをテーマ(お金に関すること・数字を扱うこと)を分析することをめざして卒業研究レポート	1. 学習マナー・ビジネスマナーが身に着く。 2. 社会人の心構え、企業の最新情報がわかる。					◎	○								

